

生涯学習の講座をご自分たちで創ってみませんか？

楽しい、ためになる、面白い、健康によい…
 ご自分たちで講座を開設してみませんか？富合
 公民館では自主講座開設のお手伝いをさせてい
 ただいております。

富合公民館では右記の流れでR3年度自主講座
 の開設の申し込みを受け付けます。 → →

- ★受付方法 『自主講座開設申請書』に
必要事項を記入
- ★受付期間 11/17(火)～12/12(土)
9:00～17:00
- ★受付場所 富合公民館事務室
※詳細につきましては富合公民館にお尋ね
ください。(11/17説明会を行います。)

主催講座のご案内

休館日の変更

富合公民館の11月からの主催講座をご紹介します。
 ※新型コロナの感染状況により開催できない場合や、募集定員を超えた場合、抽
 選になる場合などがございます。予めご了承ください。
 ※こんな講座を開いてほしいなどのご要望などメールにてお寄せください。

11/2の休館日を11/4に
 変更いたします。ご迷惑
 をおかけしますがよろし
 くお願いします。

講座名	開催日	時間	対象	費用	申込
ジュニアキッズ ダンス	11/21(土)～ 3/7(日) 全10回	10:00～11:30 または 13:30～15:00	小3～ 中学生まで	無料	11/10まで (定員12名)
・ノリノリの音楽でキレイなダンスを楽しみましょう！					
アンドロイド講座	①12/1,8,10,17 火曜及び木曜日	13:30～ 15:30	どなたでも	資料代 600円	11/17まで (定員10人)
・スマートフォンの便利な使い方の講座です。新しい発見をしてみましょう。					
ベビーソーイング (ベビーマフラー作り)	1/19・26、 2/2 火曜日(3回)	13:30～ 15:30	妊婦の方、 0歳の乳幼児 と保護者	材料費 1,000 円	12/8～1/13 (8組まで)
・赤ちゃんが使うものを手作りしてみましょう！					
ピラティス	1/20・27、 2/3・10 水曜日(4回)	10:00～ 11:30	どなたでも	無料	12/9～1/14 (定員12人)
・独特な呼吸法で体幹を意識しながら体を動かします。体の内側からバランスを整えましょう！					

講座申込方法 以下のいずれかをお願いします。

- ①返信用往復ハガキで上記の宛先へ郵送
- ②熊本市ホームページ⇒学びスポーツ⇒生涯学習⇒
富合公民館HPより
- ③公民館窓口より(返信用郵便ハガキ1枚持参ください)

*返信用はがきには以下の内容
 をご記入ください。

- 講座名 ●お名前(ふりがな)
- 年代 ●住所 ●電話番号



■令和2年11月～12月の開館日 (○:休館日) 平日 9:30-19:00
土日祝 9:30-18:00

と

みあい図書館から

* 令和2年11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	④	5	6	7
8	⑨	10	11	12	13	14
15	⑬	17	18	19	20	21
22	23	⑳	25	26	27	28
29	⑳					

* 令和2年12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	⑦	8	9	10	11	12
13	⑭	15	16	17	18	19
20	⑳	22	23	24	25	26
27	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕

▶ とみあい図書館

〒861-4151 南区富合町清藤400 Tel.357-4580

11月1日は「いい医療の日」です！とみあい図書館では、医師でもある作家の本を展示しています。医師と作家の二刀流！医療従事者ならではの視点で書かれており、考えさせられる本もいっぱいです。今回はその中から4冊ご紹介します。

新刊紹介

『ディア・ペイシェント』

南 杏子 / 著

総合病院の内科医・千晶の前に嫌がらせを繰り返す患者が現れる。病める人の気持ちに寄り添いたいと思う一方、患者たちのクレームに疲弊していく千晶の心の拠り所は先輩医師の陽子。だが彼女は大きな医療訴訟を抱えていて…。



『悪医』

久坂部 羊 / 著

経済格差が命の格差になるのは許せない。どんな状況でも、医療は希望なんだ。再発したがん患者と、万策尽きた医師。「悪い医者とは？」と問いかけ、運命のラストが待つ。悪の深さを描いた医療エンターテインメント。



『泣くな研修医』

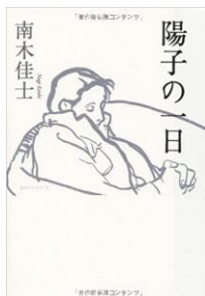
中山 祐次郎 / 著



新米医師の毎日は、何もできず、先輩医師や上司からただ怒られるばかり。だが患者さんは待たないで押し寄せ…。新米医師の葛藤と成長を圧倒的リアリティで描く医療ドラマ。

『陽子の一日』

南木 佳士 / 著



還暦を迎えた女医陽子。もはや先端医療の担い手ではない彼女は、研修医を介して送られてきた元同僚の病歴要約を読みながら、自身の半生をある思いと共に回想する…。『文学界』掲載を単行本化。